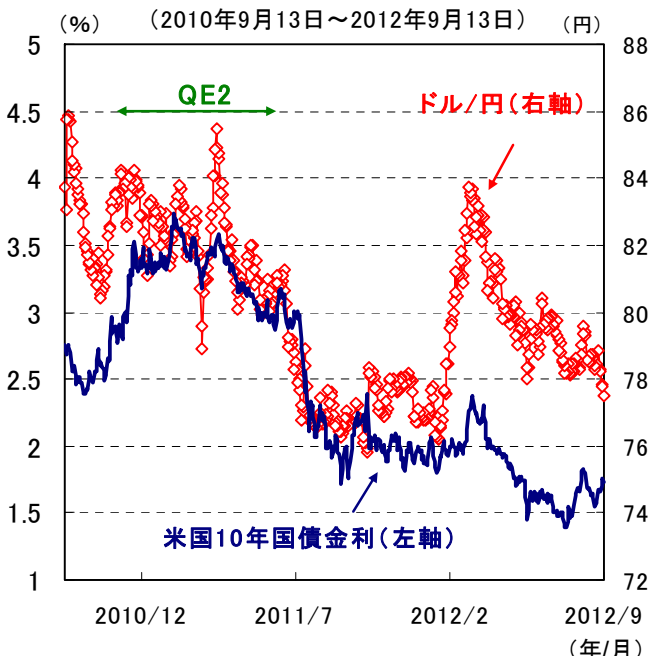


米国の量的緩和第3弾(QE3)と今後の相場について

- ✓ 米連邦準備制度理事会(FRB)は9月13日、連邦公開市場委員会(FOMC)終了後の声明で量的緩和第3弾(QE3)を実施すると発表しました。内容は①住宅ローン担保証券(MBS)を毎月400億ドルのペースで購入する。期限については、「雇用情勢の見通しが顕著に改善するまで」続ける。②FF金利を異例の低水準に据え置く期間を、従来の「2014年遅くまで」から「2015年半ばまで」に延長する、などとなっています。
- ✓ 市場では今回のQE3実施をある程度織り込んでいたものの、前回のQE2による債券購入は8カ月(2010年11月～2011年6月)の期限が設けられていたのに対し、今回のQE3は実質無期限であることなどを好感し、NYダウは前日比206.51ドル上昇し、13539.86ドルと約5年ぶりの高値となりました(図②)。また、為替市場は若干の円高(77.86円→77.49円)、債券市場では10年国債金利が小幅低下(1.76%→1.72%)となっています。
- ✓ 今後については、今回のQE3が「雇用情勢の見通しが顕著に改善するまで」実施するというものであることから、米国の景気回復・雇用改善に伴って米長期金利が穏やかに上昇することが予想されます。これに伴い、為替市場では、日米金利差拡大により、年末から来春にかけて緩やかなドル高/円安に推移すると見ています(図①)。
- ✓ また、株式市場については、為替市場での円安推移を見込んでいることから、国内株は年末から来春にかけて緩やかに上昇すると見ています。米国株式については、欧米中銀による金融緩和が株価をサポートするものの、欧州重債務問題などが重石となり、概ね横ばい圏で推移すると予想します(図②)。

(図①) 米国10年国債金利とドル/円レートの推移



(図②) 日経平均株価とNYダウの推移



出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成。

当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

〈審査確認番号H24-TB50〉